

1. 2017 新年快樂 !!
2. 感謝黃立芸、黃土珊、板倉聖哲、盧慧紋、李丹婕所提供的資訊。
3. 目前原則上固定於每周五寄發，包括展覽、演講、會議議程與徵文、網路資源、研習營等訊息，歡迎大家多多貢獻資訊。
4. 若有與中台藝術史或文化史相關的研究、演講、展覽、或會議之訊息，不論來自何地，都歡迎提供，我會將之轉給大家。雖然未必能與會，分散於天涯海角的我們卻可對各地情況有所瞭解。
5. 最新訊息以紅色標示，內容包括中(Big5)、英、日文(IME)碼。
6. 本期更新：**展覽、演講、研討會、工作坊、call for paper, 網路資源。**
7. 如有其他同好對此電子報有興趣，請告知電子郵件地址，我將加入寄送名單中。若不願收到，也請告知，以方便作業。

展覽：

■台灣

1. **國立故宮博物院**
2. 故宮南院
3. 中央研究院歷史語言研究所歷史文物陳列館

■ 亞洲

1. 浙江省博物館
2. 廣東省博物館
3. 江西省博物館
4. 上海龍美術館
5. 故宮博物院
6. 北京清華大學博物館
7. 蘇州博物館
8. 寧波博物館
9. 香港藝術館
10. **東京國立博物館**
11. **書道博物館**
12. 大阪市立東洋陶瓷美術館

■ 歐美

1. Nelson-Atkins Museum
2. The Metropolitan Museum of Art
3. Huntington Library

4. China Institute

台灣

1. 國立故宮博物院

1) 書畫家的幽默感

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

陳列室：北部院區 202,208

2) 筆有千秋業

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

展覽區 204/206

3) 名品聚焦－清人鳥譜

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

展覽區 202

4) 酉年大吉－畫雞名品特展

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

展覽區 212

5) 造型與美感－中國繪畫選粹

展期：2017/ 1/01~2017/ 3/26

展覽區 210

6) 翠綠邊地－清季西南邊界條約及輿圖

展期：2016/ 12/10~2017/ 6/28

展覽區 104

7) 若水澄華-院藏玻璃文物特展

展期：2016/08/31-

北部院區 展覽區一 304

8) 集瓊藻—院藏珍玩精華展

展期：常設展 2014/08/01~

陳列室：展覽區一 106

<http://www.npm.gov.tw/zh-TW/Article.aspx?sNo=04005700>

9) 貴似晨星—清宮傳世 12 至 14 世紀青瓷特展

展期：2015/12/25~2017/04/28

陳列室：展覽區一 203

8) 皇帝的鏡子—清宮鏡鑑文化與典藏

2015/03/31-2017/2/28

陳列室：303

2. 故宮南部院區

1) 佛陀形影—院藏亞洲佛教藝術之美

常設展

S303 佛教藝術展廳

2) 芳茗遠播—亞洲茶文化展

常設展/ S202 茶文化展廳

<http://south.npm.gov.tw/zh-TW/NormalExhibition>

3) 錦繡繽紛—院藏南亞織品展

展期：2015-12/28-2016/11/16

陳列室：S304 織品文化展廳

4) 「日本美術之最：東京國立博物館暨九州國立博物館珍藏展」

105 年 12/10 至 106 年 3/5

包括日本繪畫、佛教雕刻、陶瓷、漆器、圖書、文獻等約 150 組件，其中含日本國寶、重要文化財、重要美術品計 68 件。亦有多件中國藝術品。展覽說明與展件清單請見：

http://jpartm.npm.gov.tw/list.php#_sec0

3. 中央研究院歷史語言研究所歷史文物陳列館

1) 縈青繚白—安陽隋唐墓瓷器特展

展期：2016 年 10 月 29 日起

展區：二樓特展區 (207 室)

http://museum.ihp.sinica.edu.tw/exhibition_detail.php?id=45

亞洲

1. 浙江博物館

1) 漂海聞見:15 世紀朝鮮儒士崔溥眼中的江南

展覽時間:2016-11-16—2017-02-12

展覽地點:武林館區地下一層展廳

明弘治元年(朝鮮成宗十九年,西元1488年)正月,朝鮮官員崔溥在渡海返裡途中遭遇風浪,漂海13天后,在中國浙江台州府臨海登岸。隨後沿運河一路北上,再經陸路返回朝鮮,歷時135天,成為明代時行經運河全程的第一個朝鮮人。崔溥回國後,奉王命撰寫遊歷日記,是為《漂海錄》。其所錄內容,涉及明弘治初年政治、軍事、經濟、文化、交通以及沿途史地文物、名人古跡、市井風情等情形,成為研究明代社會及中韓交流的重要史料。

此次展覽是以《漂海錄》為基礎,通過展陳對《漂海錄》作延伸性的解讀。

與以往展陳不同,這次展覽將尋訪崔溥蹤跡作為展覽的重要一部分,尋訪的重點側重於崔溥在浙江的行蹤,尤其是浙東運河部分。今年3月31日發佈的《2016年中韓人文交流共同委員會交流合作項目名錄》,把“跟隨崔溥足跡·2016中韓人文紐帶構建活動”納入了中韓人文交流合作項目。隔著500多年的光陰,尋找崔溥筆下的遺跡,感受滄海桑田的變幻。尋訪過程將以記錄片的形式呈現給觀眾。

崔溥來到中國後,十分留意觀察各地不同的風物民情,由於明代使臣很少能到達長江以南地區,因此崔溥對江南地區的記述更為細緻,為了更直觀的理解崔溥的記述,展覽中還將展出嘉興、桐鄉、常州、江陰等地明墓出土文物,如嘉興王店李家墳明墓出土絲織服裝,常州武進王洛家族、江陰青陽鄒令人墓出土金銀首飾等。

展覽由中韓兩國博物館合作完成,兩國參展博物館達26家,共計展品300餘件(組)。浙江省博物館藏的清康熙時期繪製的《京杭道裡圖》,描繪京杭大運河流經城池及兩岸景觀,全長2032釐米,將在展覽中首次全卷完整展示。韓國中央博物館藏的奉使朝鮮唱和詩卷,是明代使臣倪謙與韓國文臣詩文唱和的手跡,文物本身便是兩國文化交流的象徵物,在韓國屬於國寶級文物,此次將首次來華展出。

http://www.zhejiangmuseum.com/zjbwg/exhibition/zt_detail.html?id=195&zltype=1

2 廣東省博物館

1) 薈雅南州——明代廣東文人的藝術與生活

展出時間:2016-9-9 至 2017-2-28

展出地點:三樓展廳三

2) 相看兩不厭——館藏明清瓷畫與繪畫的對視

2016-10-25 至 2017-2-26

展出地點:三樓展廳一

3. 江西省博物館

海昏侯國考古成果展

2016/10/11--

4 上海龍美術館

敏行與迪哲—宋元書畫私藏特展

10月28日起到2017年3月31日

80 餘件早期書法、繪畫、古籍善本珍品

由劉益謙、王薇夫婦所共同創辦的中國上海「龍美術館」，於「西岸館」，舉辦「敏行與迪哲—宋元書畫私藏特展」，展品包括 80 餘件宋元書法、繪畫、古籍善本等珍品。主辦方表示，其中有約一半是來自龍美術館本身的館藏，另一半則來自海內外 20 餘位藏家。

展品有許多都是近年來陸續現身於各地拍場的高價作品，如東晉王羲之〈草書平安帖卷〉、〈唐后行從圖軸〉、北宋蘇軾〈功甫帖〉（立軸）、北宋曾鞏〈局事帖冊頁〉、北宋徽宗〈寫生珍禽圖卷〉、南宋蕭照〈瑞應圖卷〉、南宋馬遠等〈宋帝命題馬遠繪山水冊頁〉、南宋朱熹與張景修等〈宋名賢題徐常侍篆書之跡卷〉、元代林子奐（即台北故宮藏〈元人集錦卷〉作者之一的林卷阿）〈鬪風圖卷〉、元末明初宋克〈章草急就章卷〉等書畫作品；以及北宋古籍刻本《西湖古蓮社集》等。

展覽子題區分有「帝制文心」、「恪悟教禮」、「隱逸修身」、「尚意求道」四部分，企畫以 12 個章節來表現「敏行聖人之道」，即千年以來中國的私人收藏傳統。

5 故宮博物院

1) 明清御窯瓷器: 故宮博物院與景德鎮陶瓷考古新成果展

2016.10.25-2017/2/26

2) 梵天東土 並蒂蓮華: 公元 400 年-700 年印度與中國雕塑藝術大展

2016/9/28-2017/1/3

6. 北京清華大學博物館

1) “清華藏珍”—— 清華大學藝術博物館藏品展

展覽時間：2016 年 9 月 11 日起 常設展

展覽地點：清華大學藝術博物館四層 9-13 號展廳

展覽囊括書畫、織繡、瓷器、傢俱、青銅器五個藝術門類。

2) “尺素情懷”—— 清華學人手笈展

展覽時間：2017 年 1 月 1 日—2017 年 3 月 31 日

展覽地點：清華大學藝術博物館二層 4 號展廳

3) “竹簡上的經典”—— 清華簡文獻展

展覽時間：2016 年 9 月 11 日—2017 年 3 月 10 日

展覽地點：清華大學藝術博物館四層 8 號展廳

4) “營造”中華”—— 清華營建學科專題展

展覽時間：2016 年 9 月 11 日—2017 年 3 月 10 日

展覽地點：清華大學藝術博物館四層 7 號展廳

5)“思賢師心”—— 清華大學美術學院藝術大家作品展

展覽時間：2016年9月11日—2017年3月10日

展覽地點：清華大學藝術博物館四層14號展廳

7 蘇州博物館

煙雲四合——清代蘇州顧氏的收藏

展覽時間：即日起- 2017.3.12

展覽地點：蘇州博物館二樓吳門書畫展廳&負一樓特展廳

<http://mp.weixin.qq.com/s?biz=MzA5MTM1MjMxMg==&mid=2652777896&idx=2&sn=402cd43d94edd0ccccde0b2114f01ddf&chksm=8b97303fbce0b92920b6a268ba532d0591ea4cb6417baee5495fa12c7b5e077051ad311130ae&mpshare=1&scene=23&srcid=12130qfTPByZUAjZfluAoBN#rd>

<http://mp.weixin.qq.com/s/jhffAljSodp99QjI7QrEUg>

8.寧波博物館

發現——新世紀寧波考古成果展

2016/12-08-2017/03/12

http://www.nbmuseum.cn/art/2016/12/8/art_461_361.html#ad-image-0

9.香港藝術館

石渠寶笈之香江拾遺 — 香港藝術館虛白齋書畫藏品展

Lost Treasures of the *Shiqu Baoji* in Hong Kong — Selection of Chinese Paintings and Calligraphies from the Xubaizhai Collection, Hong Kong Museum of Art

2016.11.30 – 2017.3.20

地點：香港文化博物館一樓趙少昂藝術館

Venue: Chao Shao-an Gallery, 1/F, Hong Kong Heritage Museum

《石渠寶笈》是清代乾隆時期宮廷收藏的書畫著錄。自滿清覆亡，這些寶藏很多均已散落民間或佚失。展覽將展出香港藝術館虛白齋藏 13 件與《石渠寶笈》相關連的書畫作品，展覽亦會介紹《石渠寶笈》內容，以及上世紀初故宮文物經香港流散至世界各地的歷史，藉以檢視香港過去在收藏及保存中國文物的角色。由於香港藝術館現正閉館進行擴建及更新工程，展覽將於香港文化博物館展出。

Shiqu Baoji was the name given to the catalogues of the Qing dynasty imperial collection of Chinese paintings and calligraphy during the Qianlong period. Many of the works recorded in the catalogues are now scattered or lost due to the social unrest, wars and theft that accompanied the demise of the Qing dynasty. This exhibition features 13 works selected from the Xubaizhai Collection that were previously in the imperial collection. The exhibition also highlights the significant role of Hong Kong as refuge and in conservation of China's cultural heritage during the last century. As the Hong Kong Museum of Art is temporarily closed for a major renovation project, this exhibition will be staged at the Hong Kong Heritage Museum.

10.東京国立博物館

1) 董其昌とその時代—明末清初の連綿趣味—

東洋館 8室 2017年1月2日(月)～2017年2月26日(日)

明時代に文人として活躍した董其昌(とうきしょう、1555～1636)は、高級官僚として官途を歩むかたわら、書画に妙腕を発揮しました。書ははじめ唐の顔真卿(がんしんけい)を学び、やがて王羲之(おうぎし)ら魏晋の書に遡ります。さらに当時の形式化した書を否定して、平淡な書風を理想としながら、そこに躍動感あふれる連綿趣味(れんめんしゆみ)を盛り込みました。画は元末の四大家から董源(とうげん)に遡り、宋や元の諸家の作風を広く涉猟して、文人画の伝統を継承しつつ、一方では急進的な描法によって奇想派の先駆けとなる作例も残しています。董其昌は書画の理論や鑑識においても、卓越した見識を持っていました。『画禅室随筆』は、董其昌の書画に対する深い理解と理念を示すものとして知られています。

主要陳列作品:

溪山絶塵図 呉彬筆 中国 明時代・万暦43年(1615) 個人蔵(2017年1月15日まで展示)

天目喬松図 藍瑛筆 中国 明時代・崇禎2年(1629) 個人蔵(2017年1月15日まで展示)

重要文化財 廬山観瀑図 石濤筆 中国 清時代・17～18世紀 京都・泉屋博古館蔵(2017年1月29日まで展示)

重要文化財 安晩帖 朱耷筆 中国 清時代・康熙33年(1694)・康熙41年(1702) 京都・泉屋博古館蔵(2017年1月29日まで展示)

書画合璧巻 王鐸筆 中国 清時代・順治6年(1649) 大阪市立美術館蔵(2017年1月29日まで展示)

行草書羅漢賛等書巻 董其昌筆 中国 明時代・万暦31年(1603) 高島菊次郎氏寄贈

http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1839

2) 上海博物館との競演

東洋館 2016年4月12日(火)～2017年2月26日(日)

上海博物館と東京国立博物館とは長年にわたる友好関係を築いてきました。今年度は「上海博物館との競演」をテーマに、上海博物館が所蔵する中国の陶磁器、染織品、青銅器、仏像、家具の名品55件をご出品頂けることとなりました。この展示を通じて、中国の文物に対する理解を深めて上海を身近に感じる機会としていただきたく存じます。

なお、秋の恒例行事となった「[博物館でアジアの旅](#)」の期間(2016年8月30日(火)～10月23日(日))には、「東博(トーハク)×上博(シャンポー) 夢のコラボ」と題して、上海博物館の作品を中心に展示します。

http://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=1809

3) 博物館に初もうで 新年を寿ぐ鳥たち

本館 特別1室・特別2室 2017年1月2日(月)～2017年1月29日(日)

当館では毎年正月に因んだ特集陳列を行っております。今年は平成29年の十二支が酉(とり)であることから、「暁の鳥」「祝の鳥」の二つのテーマのもとに、鳥を表わす美術工芸品を展示します。

日本には中国から伝えられた十二支という暦法があります。十二支は子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥という順番があり、それぞれに鼠・牛・虎・兎・龍・蛇・馬・羊・猿・鳥・犬・猪の動物を当てはめます。

まず「暁の鳥」では鶏をとりあげます。十二支の酉は鶏の姿で表現されることが通例です。黎明を告げる鶏は家禽として親しまれ、また闘鶏のような遊戯も楽しまれました。ここでは鶏をモチーフとする作品、そして鶏と人との関わりを表した作品を展示します。

そして「祝の鳥」では、幸運をよぶ鳥たちをご紹介します。鳥をモチーフとする美術工芸品には鷹・孔雀・鶴・鷺(さぎ)・鴛鴦(おしどり)などに吉祥的な意味を込めたり、あるいは人間の豊かな想像力が生み出した鳳凰やガルダのような瑞鳥も表わされました。ここでは実在の鳥に限らず、空想鳥を含む鳥を表した作品を展示します。

4) 特別展「茶の湯」

平成館 特別展示室 2017年4月11日(火)～2017年6月4日(日)

12世紀頃、中国で学んだ禅僧によってもたらされた宋時代の新しい喫茶法は、次第に禅宗寺院や武家など日本の高貴な人々の間で浸透していきました。彼らは中国の美術品である「唐物」を用いて茶を喫すること、また室内を飾ることでステイタスを示します。その後、16世紀(安土桃山時代)になると、唐物に加えて、日常に使われているもののなかから自分の好みに合った道具をとりあわせる「侘茶」が千利休により大成されて、茶の湯は天下人から大名・町衆へより広く普及していきました。このように、日本において茶を喫するという行為は長い年月をかけて発展し、固有の文化にまで高められてきたのです。

本展覧会は、おもに室町時代から近代まで、「茶の湯」の美術の変遷を大規模に展観するものです。「茶の湯」をテーマにこれほどの名品が一堂に会する展覧会は、昭和55年(1980)に東京国立博物館で開催された「茶の美術」展以来、実に37年ぶりとなります。

各時代を象徴する名品を通じて、それらに寄り添った人々の心の軌跡、そして次代に伝えるべき日本の美の粋をご覧ください。

11. 書道博物館

1) 董其昌とその時代—明末清初の連綿趣味—

前期：平成29年1月4日(水)～1月29日(日)

後期：平成29年1月31日(火)～3月5日(日)

今回で14回目となる東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画は、没後380年にあた

董其昌を中心とする明末清初の書を集めます。中国書画の流れを大きく変えた董其昌に焦点をあてながら、そのあとさきに活躍した人々の書画をご紹介します。

<http://www.taitocity.net/zaidan/shodou/oshirase/news/1039/>

12 大阪市立東洋陶磁美術館

台北 國立故宮博物院—北宋汝窯青磁水仙盆

2016/12/10-2017/03/26

本展では、中国北宋時代（960～1127）末に宮廷用の青磁を焼成した汝窯を代表する青磁水仙盆の名品をご紹介します。汝窯は「天青色(てんせいしよく)」とも形容される典雅な釉色と端正な造形を特徴とします。

今回、台北の國立故宮博物院から、汝窯の最高傑作であり、中国陶磁の名品中の名品といわれる「青磁無紋水仙盆」をはじめとした北宋汝窯青磁水仙盆4点と、さらに清朝の皇帝がその「青磁無紋水仙盆」を手本につくらせた景德鎮官窯の青磁水仙盆1点が初めて揃って海外に出品されます。そして、日本を代表する汝窯青磁である当館の青磁水仙盆と歴史的な「再会」が実現します。汝窯青磁を代表する青磁水仙盆の名品が初めて一堂に集う本展は、千載一遇の機会です。青磁水仙盆の名品を通して、歴代の皇帝たちが愛した汝窯青磁の美の真髄をご堪能下さい。

<http://www.moco.or.jp/exhibition/upcoming/?e=366>

歐美

1. Nelson-Atkins Museum

Emperors, Scholars, and Temples: Tastemakers of China's Ming and Qing Dynasties

August 12, 2016 - July 09, 2017

Locations: Nelson-Atkins Building, Gallery 222

The paintings will be rotated after six months.

<http://www.nelson-atkins.org/art/exhibitions/emperors-scholars-temples/>

2. The Metropolitan Museum of Art

Show and Tell: Stories in Chinese Painting

October 29, 2016–August 6, 2017

Storytelling in Chinese pictorial art is the focus of the exhibition *Show and Tell: Stories in Chinese Painting*. With some 100 works dating from the 12th century to the present, drawn mostly from The Met collection, it is presented in three sections. Each section demonstrates a different narrative mode: illustrations in multiple scenes, iconic single scenes, and stories revealed in inscriptions rather than images. The selected works tend to tell more than the storylines. The gallery featuring Emperor Qianlong's East Turkestan campaign displays European-style copperplate engravings alongside portrait painting and 18th-century weaponry. Contemporary works are included to demonstrate the genre's continuing vitality and relevance. Exhibition webpage:

<http://www.metmuseum.org/exhibitions/listings/2016/show-and-tell>

3. Huntington Library

“Gardens, Art, and Commerce in Chinese Woodblock Prints”

Sept. 17, 2016 – Jan. 9, 2017

MaryLou and George Boone Gallery

<http://www.huntington.org/WebAssets/Templates/content.aspx?id=22167>

4. Musee Guimet

Jade, from emperors to Art déco

19 October 2016 - 16 January 2017

5 China Institute

Art in a Time of Chaos: Masterworks from Six Dynasties China, 3rd – 6th Centuries

September 30, 2016 – March 19, 2017

The Six Dynasties period, from the 3rd to 6th centuries, was one of the most dynamic periods in Chinese art history, akin to the European Renaissance in the impact it had on artistic creativity and the celebration of individual expression. Over the past twenty years, archaeological excavations have unearthed extraordinary works of art, forever altering scholarly understanding of this chaotic, four-hundred-year period of political upheaval, geographical division and civil strife. Not only was the Six Dynasties period a pivotal link in the historical timeline between the Han and Tang dynasties, but it is increasingly recognized for having laid the foundation for Chinese artistic standards, genres, subjects, and important themes that continue to define Chinese art today. This exhibition will present the artistic innovations and achievements evidenced by recent archaeological findings from both the Southern and Northern Dynasties across four major disciplines: ceramics, sculpture, calligraphy and painting. Each of these disciplines provides a different glimpse into daily and ritual life during this time. Through instability came great artistic innovation, resulting in the emergence of enduring subjects, genres, and themes. This exhibition will highlight these lasting elements of Six Dynasties art, allowing visitors to see and better understand the trajectory of Chinese art that continues to today.

演講

1) 臺大藝術史研究所演講 1

http://homepage.ntu.edu.tw/~artcy/09_1_detail_120.html

DATE 2017.01.05(四)

TIME 15:30-17:00

TITLE 邱函妮博士 演講

TOPIC 鄉關何處—近代台灣美術中的故鄉意識與認同

LOCATION 臺大文學院二樓會議室

2) 臺大藝術史研究所演講 2

DATE 2017.01.05(四)

TIME 14:00-15:30

TITLE 陳韻如博士 演講

TOPIC 運作機制的畫史意義：清代宮廷繪畫活動中的皇帝、畫家及其中介者

LOCATION 臺大文學院二樓會議室

3) 故宮南院「日本美術之最展覽」系列演講

2017/01/07 10:00~12:00	日本佛教藝術賞析	潘亮文	臺南藝術大學	副教授	日本藝術 佛教藝術
2017/01/25 10:00~12:00	東山御物と雪舟	板倉聖哲	日本東京大學	教授	東亞繪畫史 日文演講 現場口譯
2017/02/18 10:00~12:00	由「日本美術之最展」 看中日美術的表現差異	巫佩蓉	中央大學藝術史所	副教授	日本藝術
2017/02/18 14:00~16:00	日本傳統服飾概述	黃韻如	國立故宮博物院南院處	助理研究員	織品藝術 日本茶道

研討會

1) International Conference on Buddhist Manuscript Cultures

January 20-22, 2017

Sponsored by the Buddhist Studies Workshop and Tang Center for East Asian Art Princeton University

The keynote lecture will be given by Matthew T. Kapstein (École Pratique des Hautes Études) and the conference discussant will be Charles Hallisey (Harvard University). Paper-givers and respondents include Heather Blair (Indiana University), Paul Copp (University of Chicago), Agnieszka Helman-Ważny (Hamburg University), Susan Huang (Rice University), Bryan D. Lowe (Vanderbilt University), Christine Mollier (Centre national de la recherche scientifique), Nathalie Monnet (Bibliothèque nationale de France), Asuka Sango (Carleton College), Kiril Solonin (Renmin University), Brian Steininger (Princeton University), SUGIMOTO Kazuki (Shosoin Treasure House), Stephen F. Teiser (Princeton University), San Van Schaik (British Library), Zhanru (Peking University).

The conference is free and open to the public but pre-registration is required by December 15, 2016

<http://csr.princeton.edu/buddhistmanuscriptcultures2017/>

工作坊

1) The Chinese Book as a Material Object

A four-day workshop at the Harvard-Yenching Library

May 16-19, 2017

With the sponsorship of the Bibliographical Society of America, the Fairbank Center for Chinese Studies, and Andrew W. Mellon Fellowship of Scholars in Critical Bibliography at the Rare Book School, we are pleased to announce a four-day workshop on the descriptive bibliography of the Chinese book. By bringing the study of Chinese editions into conversation with Western bibliography, this workshop will provide training in new methods for accurately analyzing, describing, and identifying the distinctive material characteristics of the Chinese xylographic print. Participants will be invited to engage actively in all the workshop sessions, which will be facilitated by Cynthia Brokaw (Brown University), Devin Fitzgerald (Harvard), and David Helliwell (Bodleian Library).

Day one will be dedicated to the comparative study of western bibliographic methods and the practice of the study of Chinese editions.

Day two will focus on the major features of printed books from the Song through the Qing.

Day three will focus on various rare-book catalogs and the production of accurate catalog entries.

Day four will be dedicated to the relationship between the digital text and the print book.

This workshop is free of charge, but participants are responsible for their own travel and accommodations. We invite graduate students and junior scholars with interest in the history of Chinese printing to apply.

Please send a two-page statement of interest describing how this workshop relates to your research, and your CV (three pages max) to chineserarebooks@gmail.com by January 15, 2017.

網路資源

1) 故宮 Open Data 專區

國立故宮博物院為提升政府資料開放品質、促進故宮資料在教學及個人賞析上之傳播，特別自 104 年起更新「故宮 Open Data 專區」，提供文物圖像及文物基本資料在教學用途範圍內免費下載。同時，也整合了原有文字性和數據性資料的資料集，也歡迎各界多加利用。

<http://theme.npm.edu.tw/opendata/>

2) 明實錄、朝鮮王朝實錄、清實錄資料庫

中央研究院歷史語言研究所與韓國國史編纂委員會合作

<http://hanchi.ihp.sinica.edu.tw/mql/login.html>

3) 「東アジア出版文化研究資料画像データベース」

東北大学東北アジア研究センター

<http://epub.cneas.tohoku.ac.jp/epub-db/>

4) 中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト

<http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/index2.html>

東京大学東洋文化研究所 東アジア美術研究室では、過去約半世紀に渡って国内外の中国絵画コレクションの悉皆調査を継続的に行ってきた。その成果が『中国絵画総合図録』正編5冊・続編4冊である。1982年に正編の刊行が開始され、2001年に続編が完結した。その対象は中国大陸の所蔵機関・個人及び台北故宮博物院を除く世界中の全ての地域に存する中国絵画である。図

版入りの図録が出版される前に東洋学文献センター（現在の東洋学研究情報センターの前身）よりセンター叢刊の形で目録が出版されている。

この出版の基礎になった写真資料が全て東京大学東洋文化研究所に蔵され 調査カードの形で国内外の研究者に公開されている。

	第1回調査	第2回調査
4×5inch モノクロ ネガ	16,797 枚	8,953 枚
35mm モノクロ ネガ	18,312 枚	24,756 枚
35mm カラー ポジ	18,115 枚	17,292 枚

この中国絵画写真アーカイブは複写による写真資料を含めれば 20 万点に及び、その充実は世界随一と称して過言ではない。

『中国絵画総合図録』正編の反響は非常に大きく、この形式が一典型となって、中国大陸（中国古代書画図目）・台北故宫博物院（『故宮書画図録』）それぞれのカatalog・レゾネの出版を促した。これらの出版によって世界中の中国絵画の所在情報が明らかにされたのであり、ここにいたって初めて世界に現在どのような中国絵画が何処にどのくらいあるか、その大きな全容が見えつつあるのである。それは、すなわち、美術史学に必要な学問の土台がやっとできたとも見なせよう。

当研究室及び附属東洋学研究情報センター造形部門では、1999 年度、センター発足と同時に中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクトを開始した。まずこれらの調査資料をデータベース化し新たな整理の基礎とすると同時に 調査の際撮影された作品のフィルムの保存のためにデジタル化を行っている。又、これまでの蓄積をさらに拡大するために中国絵画の現地調査をその対象範囲を広げて継続的に行っている。

ここに試験公開する中国絵画所在データベースは、研究者のさらなる利便を図るため、蓄積された調査資料の書誌データに基づき作成したものである。現在では、正編・続編共にデータの検索が可能である。